

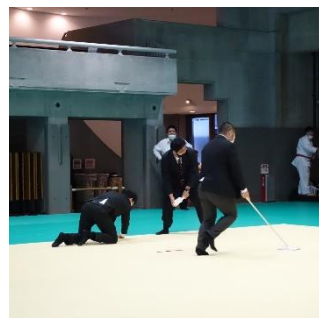


柔道部に新たな歴史スタート

◆柔道部の存続をかけ、新たな部員が稽古に励む

令和2年10月31日（土）、本校の新生柔道部が公式大会に初めて臨むこととなった。昨年度3名の柔道部員はすべて4年生であったため、部の存続を心配したが、村橋・星野両顧問の熱い説得に応えた若武者2名がいた。私は、ワクワクしながら綾瀬の東京武道館に足を運んだ。

なお、コロナ禍での大会運営となり、本校の顧問や柔道部OBが競技の合間に畳を消毒し、選手の安全と健康の確保に努め、大会の円滑な運営に尽力している姿は、とても感動的であり、感謝の気持ちでいっぱいとなったことをまずはお伝えしたい。



■長身を生かした巧みな連続技

新規加入した1年生の遠藤くんが初戦に臨んだ。180センチを超える恵まれた体格を生かし、相手に技をかけていく。しかし思うように自分の柔道が取れずに苦勞し、緊張の顔がほぐれないまま時間だけが経過していく。そんな中、初戦は、残念ながら敗退してしまった。しかし、次の試合では、相手を攻め続け、大外刈りで、見事に一本勝ちとなった。個人戦では、上位入賞が果たせなかったが、まだ1年生でもあることから、次の大会への弾みとなったに違いない。



■一度離れた柔道への思いを復活させて挑む！

4年生になり、本校柔道部の存続の危機を助けようと復活してきた川島くん。これまでの柔道経験を生かし、初戦に臨んだ。久しぶりの試合のためか、遠藤くん同様、思うように体が動かない様子があったが、得意の寝技に持ち込み、見事一本勝ちで勝利を収めた。

勝利の瞬間、思わず出たガッツポーズは、まさに復活ののろしの様な力強さと逞しさがあった。遠藤くん同様、今後の活躍に期待したい。頑張れ！荒工定柔道部！

